

委員からの施策提案

1. 基本方針1に関する施策提案(長山委員)
「地域産業振興を身近な場で構想・実行する体制づくり」
「アントレプレナーシップを軸とする地域プラットフォーム」
2. 基本方針2に関する施策提案(吉田委員)
「世田谷における地域密着型投資ファンド」
3. 基本方針3に関する施策提案(市川委員)
「行政、企業、アカデミック、NPO、市民-クロスセクターによるエコシステム」
「サステナブルワークスタイル共創プラットフォーム」
4. 基本方針4に関する施策提案(田中・見城委員)
「世田谷＝エシカルタウンの確立」

【委員の施策提案にあたって】

- 委員の「勉強会」における議論の積み重ねを経て、条例の理念を「腹落ち」させ、そのうえで理念を具現化する施策や事業についてアイデアを創発的に出した。
- 基本方針1～4について、それぞれに軸足を置いた施策を考えた。その際、1～4の「縦」だけではなく、横軸を通すような施策を提案するように努めた。
- その横軸として、区民・事業者の「ウェルビーイング」「サステナビリティ」という最上位目標がある。
- 施策提案のポイントは、多様な人・モノ・事業などが、多様なテーマ・課題のもと、共感と信頼をベースに、つながり・創発し・共創し、価値(経済的＋非経済的価値)を創造する仕組み(プラットフォーム)づくり。その手法の一つは、コレクティブ・インパクト。
- 今回の委員提案施策は、今後区で作成する「改正・産業ビジョンおよび産業振興計画」におけるモデル事業として取り込んでもらうことを想定している。
- 次年度以降の「地域経済の持続可能な発展を目指す会議」においても、今回のような委員提案施策を継続的に次々と構想していく予定。

地域産業振興を身近な場で構想・実行する体制づくり | アントレプレナーシップを軸とする地域プラットフォーム

「サステナビリティ」「ウェルビーイング」を最上位の目標に置き、区民生活を支える多様な地域産業の持続性の確保に向けた基盤強化を図る

区の産業部門の新体制・新機能

経済産業部

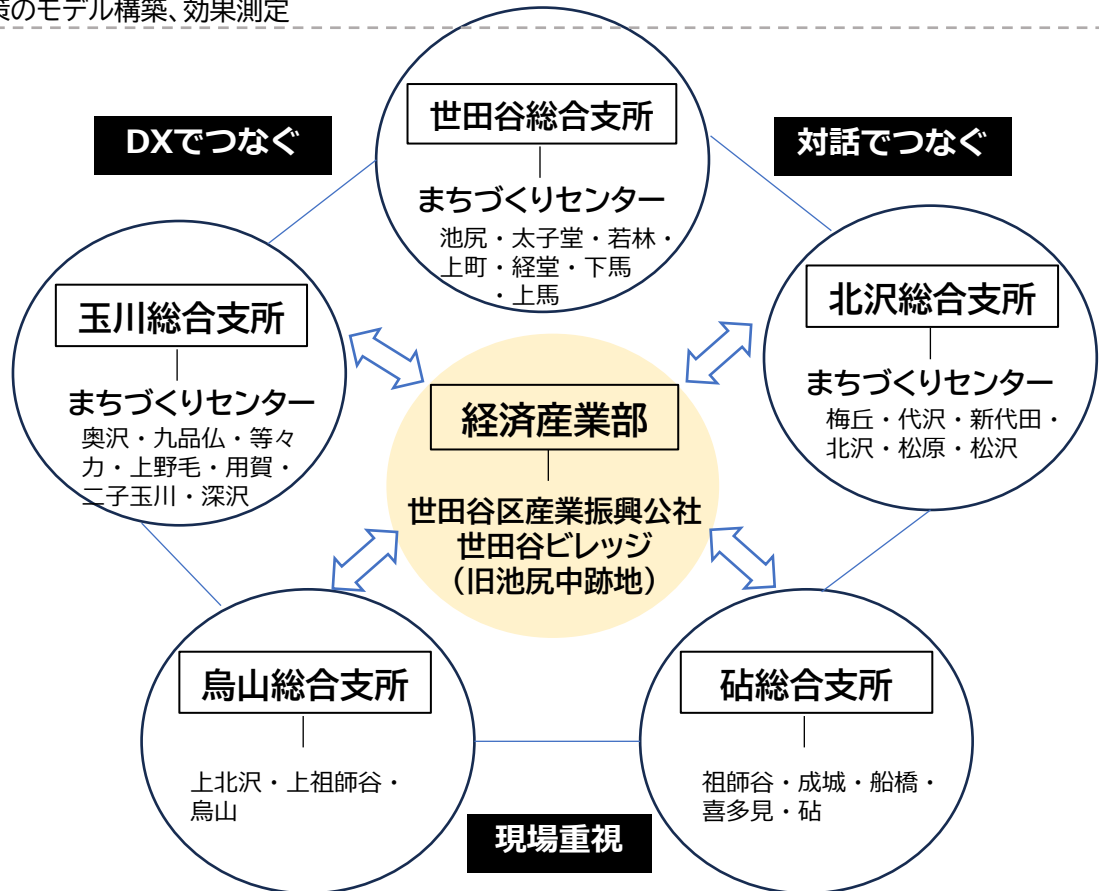
- ・区の産業振興の基本方針
- ・自治体DXを先導、実装化
- ・他部門(教育、子ども、環境、都市整備等)の領域に踏込む
- ・産業振興公社の事業再構築
- ・セタカラーのような新規事業・施策のモデル構築、効果測定

総合支所

- ・当該地区の産業振興計画(アクションプラン)を策定
- ・世田谷ビレッジ的な拠点(産業振興・創業・学び・コミュニティ・まちづくりの総合拠点)づくり

まちづくりセンター

- ・住民ニーズと事業アイデアの場合
- ・当該地域の課題に取り組む人材(アントレプレナー)を輩出・育成する地域プラットフォーム
- ・サステナブルワークスタイル共創プラットフォームづくり



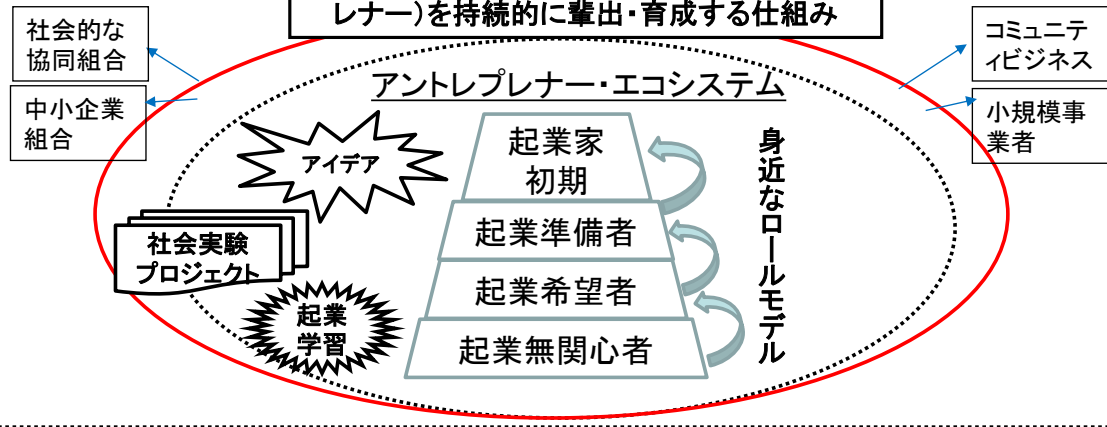
中小企業憲章(2010)、小規模企業振興基本法(2014)
 中小企業振興条例の制定運動(現在、669市区町村制定)
 世田谷区産業振興条例→地域経済の持続可能な発展条例(2022)
 サステナビリティとウェルビーイング: 地域との共生

「アントレプレナーシップ」を軸とした地域づくり、地域プラットフォーム

世田谷区の多様な課題(テーマ)

福祉 医療	環境	情報	観光	食	伝統 工芸	商店街 中心市街地
産業 振興	安全 防災	地域 金融	教育 保育	スポ ーツ	文化 芸術	まちづくり

多様な課題を解決する地域的人材(アントレプレナー)を持続的に輩出・育成する仕組み



大学

産業支援機関

区経済産業部
+都市整備など
他部門横断

地域金融機関

士業(コンサル等)
支援ビジネス

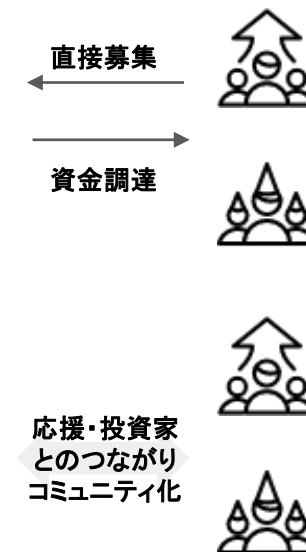
世田谷における地域密着型投資ファンドの重要性

- 起業の促進や既存事業の活性化を通じた、世田谷地域経済の持続的な発展に向けて、「市民が、世田谷の起業家・事業者を直接応援・投資できるファンド環境・仕組み」が重要ではないか？
- 従来型クラファンに加え、非上場株式や不動産などの投資型クラファン、ふるさと納税版クラファン等、まちの投資家が金銭的リターンも得られるように投資環境を充実させていくことが必要
- さらに、まちから挑戦する人を応援するカルチャーを醸成する為に、区内商業施設やマルシェ内でのピッチイベント開催、区内スポーツチームを応援するファンドの設立など、市民と事業者が出会い/つながる機会の創出、そして、挑戦する人を応援するコミュニティづくりの促進も合わせて実施していくべきではないか

世田谷の市民・投資家



世田谷の起業家・事業者



①市民が事業者に直接投資可能な地域密着ファンド

→まちの投資家がまちに投資・リターンを得られる環境の充実

株式型
クラファン

不動産型
クラファン

社債型
クラファン

NFT型
クラファン

ふるさと納税
クラファン

②市民・事業者同士が出会う / つながる仕掛けづくり

→まちの人がまちの挑戦者を応援・投資するカルチャーの醸成

商業施設での
ピッチイベント

スポーツチーム
応援ファンド

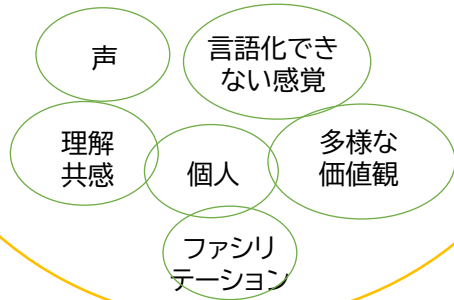
10代向け
インキュベーション
プログラム

区内の祭り・
イベントとの
連携・コラボ

基本的な考え方 | 行政、企業、アカデミック、NPO、市民-クロスセクターによるエコシステム

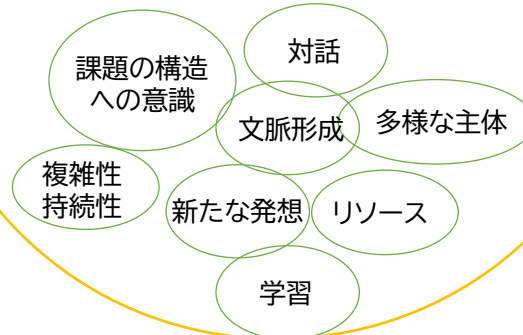
サステイナブルな地域イノベーション推進、共創プラットフォーム、サステイナブル&ソーシャルデザインラボ。。。ネーミングはまだ浮かんでいません。

【Me-I】 生活者・当事者の ナラティブ



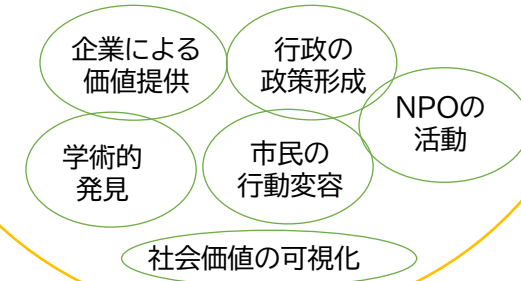
- 日常の延長線上にある、安心して口に出せる場。(環境設定)
- ここでいう「市民」とはどのような組織の人であれ「個としての自分」という意味。経営していることや働いていることなども含む。(対象者)
- 言語化されないものを掬い取る、浮かび上がるのを待つ(人材が重要)
- ここでは解決しようとしな(向き合う姿勢、あり方)

【I-We】 「まちづくりの問い」に 共に向き合う



- 年齢、性別、組織、価値観など様々な壁を乗り越える
- 多様なステークホルダーによる深い信頼関係を築く
- 兆しを通し、集的に問題を定義する、課題の構造をつかむ
- 新たな発想で何にどうアプローチするか考える(文脈、計画)
- 必要な資源を持ち寄り、行動へ

【We】 問題解消・課題解決 にむけたコミュニティの醸成 共有価値の創造



- サステイナビリティやソーシャルがテーマ。プロセス重視。
- 「世田谷らしい」(=世田谷の人材、プレイヤーが参画する)チャレンジの総量をあげる
- その先のビジネスや政策形成に向けたエビデンス、インパクトを意識。
- 長期的かつコレクティブな成果にむけた支援とセットで

様々な「兆し」に触れる場づくり
多様性を前提とした信頼関係の構築

パブリックベネフィット・コミュニティベネフィットの探究
その象徴となる事業や政策の組成
経済の持続可能な発展推進

ローカルイノベーションエコシステム | 多様な働き方実現のための共創プラットフォーム

キャリアが途切れない多様な就労機会、多様性を活かした社会的役割のあるまち
 ×
 地域経済や地域産業の持続的発展

